



ついに新米が獲れました！！



思い返せば種を蒔いてから約5ヶ月。長いようで短い、短いようで長〜い5ヶ月間でした。今年には台風の被害も激しいものではなく、日照が大きく不足したりしたわけでもないのですが、結果的には「例年よりやや不作」。同じ九州でも宮崎ではかなり深刻なようですが、南阿蘇ではそこまでひどくはないようです。でも豊作でもない。どちらかと言えば不作、という程度です。もっともこれは量の話。台風に揉まれたモミもあるのですが、一粒一粒は充実していて全体的にはきれいです。気になる味の方も...まずは皆さんお召し上がりになって下さい！

今年の稲刈りが始まったのは9月7日。毎年、近所のおじいさんが「いつでもいいから(手が空いているうちに)うちの刈ってくれ」とせかしに来るのが開始の合図。我が家の田んぼと隣り合わせになっているそのおじいさんの田んぼを最初に刈ることで、今年の出来や機械の調子がわかります(笑)



稲刈りはだいたい二人組みで行います。一人はコンバインに乗ってじゃんじゃん刈り取る役目。もう一人は機械では刈れない隅を鎌で刈ったり、モミを乾燥施設に運んだりします。道路に面した田んぼなら2トラックを横付けできるので1,2度運べばすむのですが、奥の方にある田んぼの場合は軽トラックの荷台にモミをためて運ぶので、何度も往復することになります。機械が大好きな子供たちは、飽きることなくコンバインを眺めて喜んでいきます。

キュウリの出荷は、9月10日をもって終了しました。2ヶ月半ほど続いたキュウリな夏に終止符がうたれました。ほっとしたような、さみしくなったような。自家用だけでは食べきれないほどとれてはいるのですが、出荷するには足りない。あとはぼちぼち食べていけば、そのうち枯れていきます。キュウリも人間も毎日お疲れ様でした！

この1ヶ月にもたくさんお客さんがありました。先月の精米日にやってきたのは海外から

の4人組。日本語、ドイツ語、英語、イタリア語、それからフランス語まで飛び交う中、キュウリの収穫から選別、箱詰め、箱作り、そして子守りや食事の後片付けまで手伝ってくれ、とっても助かりました！耕太の妹がお友達を連れてやってきたり、大学時代の友人たちが泊まりに来たり。そして先週は長崎の小学生が16人も！修学旅行の一環で、農作業を体験したり、阿蘇の暮らしを味わったりするのが目的なのだそう。我が家でも毎年受け入れています。今年は耕太の企画により、自然の中でそこにあるものを使って作る「ランドアート」を体験してもらいました。牛の放牧地に「チカラシバ」という雑草がはえているのですが、そこで一部分だけ抜いてみたら面白いのではないかというのがもともとの発想。ふもとのから見上げてみたら、ぽっこり緑色の円が見えました。



8月28日は皆既月食でした。おにぎりやおかず、そしてビールをもって田んぼの中にある天神様まで行きました。近所の友人家族も一緒になって田んぼを照らす月を眺めていると、だんだん赤黒く陰っていくではありませんか。あれ、真っ黒にはならないのかなー、などと話していたところ、左下がキラッと光り始め、そこからゆっくりと満月に。田舎ならではの「暗い夜」。遮るものがない夜空で繰り広げられる感動の天体ショーを見て、たくさんのエネルギーを得ることができました。

さて、稲刈りはまだまだ続きます。我が家の稲刈りのほか、よその稲刈りも請け負っているからです。励志&耕太コンビは1ヶ月以上も続く稲刈り作業の真っ只中。雨が降ればお休みですが、晴れが続けば休みなし。がんばり時です。

先月号の通信でお知らせしていたNHKのBSハイビジョン番組「同じ屋根の下」で我が家が登場するのが**10月4日に変更になりました**。22時からの番組ですのでご覧になってみてください。

最後になりましたが、今年も年間予約をしてくださった皆様、本当にありがとうございます。無事に新米をお届けすることができ、私たちも嬉しい気持ちでいっぱいです。そしてたくさんのエールを送ってくださり、ありがとうございました。新米はまだみずみずしさが豊富なので、若干水を控えめに炊き上げていただくと、よりおいしくなります。食欲の秋は他にもおいしいものがたくさん。体型のことなど気にせず、おいしいものをいっぱい召し上がってくださいね！

